教室通信

就職・採用活動時期の変更　続報

電子工学専攻長　竹　内　繁　樹

1年前に発行されましたCue33号の中の、和田修己電気工学専攻長が執筆された教室通信にありましたように、平成27年度に卒業・修了（平成28年3月卒業・修了）の学生諸君から、就職活動の時期が大きく変更されました。本稿では、続報として、その経緯、結果について振り返ってみたいと思います。なお、下記の内容は、工学研究科電気工学専攻・電子工学専攻の修士課程学生への対応を中心にまとめています。

1. 平成27年度の、就職・採用活動時期の変更とその背景

平成26年度までは、企業から学生に対して就職情報を伝える、いわゆる「広報活動」は、前年度の12月に解禁になり、また実際に面接などが行われる採用選考は、4月1日に開始でした。この日程に対しては、学部生の場合3回生後半、修士学生の場合修士1回生後半から実質的に開始となる就職活動が、場合によっては翌年の9月まで続くなど、勉学・研究活動への障害となっていることへの強い懸念が、大学界から出されていました。

この状況の改善を目指し、平成27年度は、広報活動の解禁が平成27年3月1日、選考活動の解禁が平成27年8月1日に変更されました。これは、国立大学協会も参加している「就職問題懇談会」による議論・申し合わせを元に、経団連への申し入れが総理大臣よりなされ、それを受けて経団連より加盟企業宛に通知されたという流れになっています。詳細は、Cue33号の教室通信をご覧ください。その中で、和田教授は就職活動時期の後ろ倒しによる、卒論・修論作成や学会活動への影響について懸念を表明されています。また3・4月および7・8月の春・夏休暇を活用した重点的な採用活動についての協力要請もされていました。

2. 平成27年度の、就職・採用活動の実際

平成27年度の就職活動は、就職担当教員、学生、企業のいずれもが手探りの対応となりました。電気工学専攻・電子工学専攻は、3月1日の広報活動解禁までは、OB訪問も含めた広報活動の自粛を要請するとともに、3月1日以降についても、勉学・研究活動に配慮し、夕方以降におこなっていただくこと、またゼミなどへの支障をさけるために、企業説明会は近隣の有料会議室等を活用して頂くことを、各社に依頼しました。各企業には御理解、ご協力をいただけ、おかげさまで静謐な環境を維持できました。また学生に対しては、1月に進路説明会を実施、就職活動時期の変更について周知すると共に、博士後期課程進学のメリットについても説明しました。3月中旬には洛友会主催の交流会が開催され、各企業と学生の活発な交流がなされました。一方で、企業側の対応はさまざまでした。紳士的に「申し合わせ」を遵守し8月1日まで選考活動を一切行わない企業もある一方、専攻長との面談時に「当社は5月に面接による選考を予定しています（明らかな申し合わせ違反）」と断言され、驚き抗議する場面もありました。6月～7月の企業訪問時に、一種のマッチングを行うケースも見られました。

結果としては、おかげさまで電気系専攻の学生に関しては、8月1日の選考活動解禁後、速やかに内々定を頂くケースが多く、8月中には殆どの学生が内々定を得られました。一方で、3月の広報活動解禁から8月の選考活動解禁の5ヵ月間は、多くの学生が就職活動に多くの時間を費やす状況が生じました。また経団連申し合わせにある「学業への影響をさけた」広報活動が遵守されていないケースが多く目についたのは大変遺憾でした。

3. 平成28年度の、就職・採用活動にむけて

報道によれば、平成28年度について、広報活動解禁は3月1日で維持するが、選考活動の解禁を6月1日とする方針を経団連会長が平成27年11月9日記者会見で明らかにしました。突然の変更に、大学側での対応も現時点（平成27年12月）でまだ決定できていない状況です。また、広報解禁から選考解禁までの期間が平成27年度の5ヵ月から3ヵ月と、平成26年度以前の4ヵ月よりも短縮されます。一層の短期決戦が予想され、特に4月、5月の授業期間における勉学･研究への影響が強く懸念されます。今年度を見ても、日程変更などの制度の改変そのものは学生に大きなストレスとなります。最後に、OBの皆様におかれましては、平成28年度の就職活動に関しましても、なにとぞご理解・ご協力を賜りますようお願い申しあげます。